

平成 22 年度湊中学校学校経営方針

基本方針

学校は公教育の場であり、青森県及び八戸市の学校教育指導の方針と重点をふまえ、教育目標を具現化することにあります。そのために、生徒一人ひとりが人間として尊重される教育を基底に全教職員が「学校の深化成長は、教師集団の結束力から～和をもって一枚岩で～」のもとに、学校運営への参画意識と自律的責任感をもって全ての教育活動をとおして、「生きる力」を身につけた生徒の育成を図りたい。

ア 公教育の立場に立ち調和と統一のある教育課程を編成し、その実施にあたっては各領域の特性を生かすとともに、指導方法を工夫し目標管理を適切に行う。

イ 教育指導計画を充実させるとともに、その内容を各分掌組織、各学年、各学級でさらに具体化し、全教職員の連携を強化し、協働実践に努める。

ウ 教育課題を的確に把握し、指導の重点と実践過程を明確にする。

エ 教育指導に関する評価を実施し、指導と指導計画の改善に努める。

オ 学校経営活動に関する評価を実施し積極的に経営改善に努める。

カ 教師と生徒の師弟同行の姿勢と信頼関係の構築に努める。

キ 保護者・地域社会との連携を図り開かれた学校経営に努める。

校訓

「自律」 「創造」 「奉仕」

教育目標と努力目標

教育目標

- ア 自ら学ぶ生徒 (知)
- イ 思いやりのある生徒 (徳)
- ウ たくましく生きる生徒 (体)

努力目標

- ア 目標をもって学ぶひとになろう
- イ 人の気持ちのわかるひとになろう
- ウ 進んで活動するひとになろう

学校目標

基礎基本の確実な定着を図る

- 重点施策 課題の設定を工夫した授業改善
- 特別支援教育の視点を生かした授業実践

学級経営を基盤とした豊かな社会性の育成

- 重点施策 学年経営と連携した学級経営の充実
- 感動と絆を耕す学校行事の工夫

指導の具体的方針

確かな学力と豊かな心身の成長の保障に努め、適切な進路選択を可能にし、自立できる生徒を育成する。

従って、基礎的・基本的な知識・技能の確実な習得を図るため、音読、暗記・暗誦、反復学習などの活動をとおして体験的、身体的に理解させること、また、思考力・判断

力・表現力等を確実に育むために、各教科の中で観察・実験やレポートの作成など知識・技能を活用する学習活動を充実させることを本年度からの重点と捉え指導にあたる。

併せて、各教科等における言語活動の基盤となる言語能力の育成のため読書の一層の推進を図るとともに、特別支援教育の視点を生かした授業改善を継続推進する。

さらに、たくましい心身の成長を促すために、学校や家庭生活で出会うさまざまな試練（乗り越えるためには努力が必要とされる困難なこと）を自覚的に受け止め乗り越えようとする態度を育成する。

各教科及び総合的な学習の時間

ア 単位時間の指導目標を明確にし、生徒一人ひとりが分かる授業を実践し、確かな学力を身につけさせる。

イ 学力差の実態や発達障害等の特徴をふまえ、生徒の興味・関心を高め、個に応じた課題づくりに努める。

ウ 学力差をふまえ教材の精選と評価の観点にあわせた評価方法を明確にした授業改善に努める。

エ 実験・観察・調査等の活動やレポート作成、創作・制作の表現活動を積極的に取り入れる。

オ 学習活動において生徒が疑問を持ったり、問題を見つけたりする場面や知識・技能を活用する場면을指導過程に位置づける。また、学年間や学年内での反復・スパイラル指導を配置した年間指導計画を作成する。

道徳教育

ア 教育活動全体をとおして道徳的实践に努める。

イ 日常生活をとおして内面化を図り、正しい判断力と道徳実践力を育成する。

ウ 生活目標の実践により、基本的行動様式の徹底を図る。

特別活動

ア 生徒会活動や学年プログラム委員会活動を活発にし、自律的に活動できる活力のある生徒を育成する。

イ 望ましい人間関係を育成することを基盤としながら、生徒会活動・委員会活動・部活動などで自己実現の場を設定し目標の達成を図る。

ウ 学校行事をとおして生徒一人ひとりの役割を自覚させ、責任ある活動と協調的な態度を育成する。

エ 部活動をとおして、心身の鍛錬、技術の向上、規律やマナーの体得をはじめ、友情を培ったり、試合などに参加することによって感動的な体験を味わわせる。

また、必要であれば、部単位での学習活動や生活をともにするなかで絆を深める合宿なども取り入れる。

進路指導

日々の活動をとおして、個々の生き方を見つめ自己表現する能力や態度の育成に

努める。

- ア 生き方や夢・希望などの個性を生かした進路指導を推進する。
- イ 自己理解を深めるために適切な情報を提供し進路選択や自己決定の能力を高める。
- ウ 発達段階に応じた人生観・職業観の指導と生活意欲を高める工夫に努める。

健康・安全対策

心身ともに健康な生活を営むために、健康・安全に対する知識・理解、技能を身につけさせ、健康と体力の増進に励む生徒の育成を図る。

- ア 年間指導計画に基づいて安全教育の徹底に努める。
- イ 教科体育の充実、学校行事や部活動などによって体力や運動能力を養う。
- ウ 給食活動をとおして、正しい食習慣の育成を図る。
- エ 校舎内外の施設・設備、通学路の安全点検を定期的に行う。
- オ 疾病治療に努め保健教育と保健管理との一貫性を保つよう調整を図る。

家庭・地域社会との連携

家庭・地域社会の特性を把握し、学校と家庭・地域社会との連携を図るとともに、学区内の小学校との情報交換に努め、望ましい教育環境の整備を図る。

- ア 諸行事への案内及び学校や学年通信など広報活動をとおして働きかけを強化する。
- イ 地域社会の諸活動へ参加し、連携強化に努める。

研修

学校課題解決のために全教職員の協働のもと、組織的な研修活動の推進を図る。
広く研修を深め、職能の向上によって自己啓発・自己創造に努める。

- ア 教師が進んでアドバイスや助言を求め、教職の厳しさを自覚して切磋琢磨するとともに心豊かで協調性ある人間関係を構築する。
- イ 学校運営や生徒指導の力量を研修や研究授業等で高める。
- ウ 特別支援教育に関わる研修をとおし障害を抱える生徒に対する理解を深める。
- エ 生徒の声、声なき声に耳を傾け生徒との人間的な触れ合いに努める。
- オ 確かな人間観・教育観・指導観を書物や各種研修会で学ぶ。

学校課題

[教育課題]

基礎学力の向上を図る

- ア 自らの力で計画的・継続的に学習する態度を育成する。
- イ 生徒の良さや可能性を伸ばす教育をめざし、指導方法を工夫し、基礎的・基本的知識の習得のうえに思考力・判断力・表現力を培い分かる授業を展開する。
- ウ 学力差をふまえ個別指導を充実し、基礎的・基本的知識・技能の定着を図る。
- エ 進路指導を充実し生徒一人一人に目標を持たせた学習活動に取り組みさせる。
- オ 毎朝の読書を継続し基礎学力の基盤となる言語能力を育成する。

望ましい生活態度の育成を図る

- ア 基本的な生活習慣を身につけさせる。
 - ・ きまりを守る ・身だしなみを整える ・挨拶をする ・そうじに励む
- イ 真剣な学習態度を身につけさせる。
 - ・よく聞く態度 ・落ち着いて考える態度 ・発表する態度 ・学習規律の確立
- ウ 道徳の時間や学級活動を充実させ道徳性や言動の向上を図る。
- エ 問題行動の防止に努める。
 - ・あきらめない積極的な生徒指導の充実 ・教職員間の相互報告の徹底
- オ 家庭・地域社会との連携を強化する。
 - ・家庭との連携 ・学校間及び関係機関との連携 ・地域社会との連携

[教育課題に関する見識]

学力の向上を図る

ア 授業づくりを中心とした学習指導の展開

学校教育の中核は授業である。一人ひとりに分かる授業を展開することが生徒指導の根幹です。すなわち、授業における三機能を生かした授業が要求されます。

そのためには、授業に臨む厳しい態度を要求し指導にあたっては笑顔で接し考えさせ、認めることが必要である。一方では、教材研究を十分に於て授業に臨むことは必須の条件となります。

イ 学習環境づくり

環境は人をつくります。落ち着いた学習環境は心を和ませ、ひいては学習意欲につながります。また、発達障害を抱える生徒に配慮した教室環境づくりも必要となります。

- ・ 教室環境の整備・・・言語環境も含め共通性・統一性・独自性などを考える。
発達障害の生徒に配慮した掲示物や連絡板等の設置。
- ・ 校舎内外の環境整備
- ・ 清掃・・・掃除の行き届いた清潔な校舎、整然と整備された校地

ウ 学習規律づくり

学習規律は授業づくりと対応して段階的に確立されます。

- ・ 授業の基本的形態を確立する段階（授業を真剣に受ける段階）
- ・ 授業研究等による指導方法の改善を図る段階
（授業中に活発に発言し授業を楽しく受ける段階）
- ・ 授業が充実し個別化・個性化を図る段階（能力に応じて活発な学習活動を展開する段階）

エ 学年・学級経営の充実

教育活動の活性化は学年・学級活動に左右される。生徒を主体的に活動させるためには自発的・自治的活動を促し、担任が指導する道徳の時間や学級活動等を充実させる必要があります。

望ましい生活態度の育成と道徳的実践力の向上を図る

ア 学校秩序の確立

生徒の言動が乱れるには要因となっている土壌があることを見抜かなければなりません。その基底要因として、

- ・学校のきまりと心得・約束などさまざまなルールの軽視の風潮
- ・学校生活の基盤である集団規律の希薄さや集団としての問題解決能力の不足
- ・中学生として身につけておくべき生活行動様式の未熟さ等があります。

イ 指導内容の重点化

生徒指導に関しては全教職員が一丸となり、一定期間で一定の効果をねらって重点的に指導していきたい。

- ・学校秩序の必要性を全教育活動の場をとおして自覚させる。
- ・生徒集団の問題解決・自浄能力を高める。
- ・ルールの軽視や違反の風潮を見逃さず、全教職員による早期発見と早期指導を進める。
- ・個別指導の徹底を図る。
- ・全教職員の協働組織体制指導を徹底する。

ウ 家庭との連携

教育は家庭との連携なしには効果をあげることは困難です。学校教育への積極的な理解、教師と保護者との信頼関係、具体的指導項目の連携が必要です。

エ 教育の条件整備

学校教育には、周到な計画、最後まで見届ける指導、過程の評価、結果の評価、そして、評価に基づく計画の改善が不可欠です。一人一人の生徒の指導に全教職員が責任を持ち、教師が相互援助するために次に示す共通理解と共通実践が基本となります。

- ・教育目標の共通理解（教師・生徒・保護者）
- ・教育課程と教育計画
- ・学年・学級経営
- ・校内研修

オ 小学校・地域社会との連携

- ・地域の特性を生かした地域教材（人的・物的）の開発に努める。

カ 関係機関との連携指導

- ・生徒指導の多様化への対応

校内研修計画

本年度の研究主題は、過去三年間の取り組みを終了し、その成果と課題及び新学習指導要領の移行措置をふまえ次のような内容とします。

- ・21年度研究主題「確かな学力の定着を図る、思考力・表現力を育む指導法の工夫」
～ 課題設定の工夫を通して～

- ・ 20年度研究主題「自ら学び考える生徒の育成を目指して」
～基礎・基本の確実な定着を図る指導法の工夫～

平成21年度湊中学校教育目標等について

1 教育目標と努力目標

教育目標	努力目標
ア 自ら学ぶ生徒 (知)	ア 目標をもって学ぶひと なろう
イ 思いやりのある生徒 (徳)	イ 人の気持ちのわかるひと なろう
ウ たくましく生きる生徒 (体)	ウ 進んで活動するひと なろう

2 学校目標

基礎基本の確実な定着を図る

重点施策 課題の設定を工夫した授業改善
特別支援教育の視点を生かした授業実践

学級経営を基盤とした豊かな社会性の育成

重点施策 学年経営と連携した学級経営の充実
感動と絆を耕す学校行事の工夫

3 学校経営の基本方針

学校は公教育の場であり、青森県及び八戸市の学校教育指導の方針と重点をふまえ、教育目標を具現化することにあります。そのために、生徒一人ひとりが人間として尊重される教育を基底に全教職員が「学校の深化成長は、教師集団の結束力から～和をもって一枚岩で～」のもとに、学校運営への参画意識と自律的責任感をもって全ての教育活動をとおして、「生きる力」を身につけた生徒の育成を図りたい。

公教育の立場に立ち調和と統一のある教育課程を編成し、その実施にあたっては各領域の特性を生かすとともに、指導方法を工夫し目標管理を適切に行う。

教育指導計画を充実させるとともに、その内容を各分掌組織、各学年、各学級でさらに具体化し、全教職員の連携を強化し、協働実践に努める。

教育課題を的確に把握し、指導の重点と実践過程を明確にする。
教育指導に関する評価を実施し、指導と指導計画の改善に努める。
学校経営活動に関する評価を実施し積極的に経営改善に努める。
教師と生徒の師弟同行の姿勢と信頼関係の構築に努める。
保護者・地域社会との連携を図り開かれた学校経営に努める。

4 指導の具体的方針

確かな学力と豊かな心身の成長の保障に努め、適切な進路選択を可能にし、自立できる生徒を育成する。

従って、基礎的・基本的な知識・技能の確実な習得を図るため、音読、暗記・暗誦、反復学習などの活動をとおして体験的、身体的に理解させること、また、思考力・判断力・表現力等を確実に育むために、各教科の中で観察・実験やレポートの作成など知識・技能を活用する学習活動を充実させることを本年度からの重点と捉え指導にあたる。

併せて、各教科等における言語活動の基盤となる言語能力の育成のため読書の一層の推進を図るとともに、特別支援教育の視点を生かした授業改善を継続推進する。

さらに、たくましい心身の成長を促すために、学校や家庭生活で出会うさまざまな試練(乗り越えるためには努力が必要とされる困難なこと)を自覚的に受け止め乗り越えようとする態度を育成する。